

『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：ミセラニー写本収録作品

Manuscrits enluminés de la *Bible française du XIIIe siècle* : témoins dans *miscellanea*

駒 田 亜紀子

はじめに⁽¹⁾

『十三世紀フランス語聖書 *Bible française du XIIIe siècle*』は、13世紀中葉にパリで成立した、初の完訳版フランス語聖書である⁽²⁾。今日、断片を含め、13世紀後半から15世紀後半にかけて制作された30点余の写本作品が伝存するが、その多くは何らかの挿絵彩飾を伴う作例である⁽³⁾。

本稿では、『十三世紀フランス語聖書』の「ヨブ記」を収録するミセラニー写本であるレンヌ市立図書館593番写本(Rennes, Bibliothèque municipale, ms. 593; 以下 Rennes 593と略す)(図1)を糸口に、14世紀前半に急速に普及する散文体仏語訳聖書における「ヨブ記」挿絵画像の特徴を探りたい。

レンヌ市立図書館593番写本(Rennes, Bibliothèque municipale, ms. 593)⁽⁴⁾(図1)

538 フォリオ、370 x 247 mm

テキスト欄： 折丁群1 (fols.1-42) 約235～255mm x 190～215mm

折丁群2 (fols.43-103) 約260 x 200mm, 3 コラム49～50行

折丁群3・4 (fols.104-538) 約260 x 195mm, 3 コラム49行

収録テキスト：【別表】参照

制作地：パリ

制作年代：1303年

1 写本の概要 (【別表】参照)

Rennes 593は、『十三世紀フランス語聖書』版ヨブ記(fols. 289v, col. A - 319v col. C)を収録する、ミセラニー写本である(図1)。韻文体ないしは散文体仏語による約20点のテキストをフォリオ版(約370 x 247 mm)の羊皮紙500葉超に収めた大部な写本作品であるが、その核となるのはキリスト教的世界観に基づく百科全書・自然科学的著作(*tables astronomiques*; Gossuin de Metz, *Image du Monde*; Brunetto Latini, *Livre du Trésor*; *Livre de Sydrac*; *Placides et Timeo* など)ならびに道徳・教科的著作(*Gautier de Coinci, Miracles de Notre Dame*; *Livre de Job*; Honorius Augustodunensis, *Lucidaire*; Boethius, *Consolation de Philosophie* など)である⁽⁵⁾。

Rennes 593に収録されたテキストは、丁を改めずに書き継がれた複数の異なるテキストを収める折丁群 (booklet / libellus)⁽⁶⁾を単位として、4群に分けられる。すなわち、暦に関する諸表をまとめた第1群(折丁1-5: fols. 1-42)、韻文体テキストを収録する第2群(折丁6-13: fols. 43-103)、本文全体の4/5近い文量の散文体テキストを収録する第3群(折丁14-64: fols. 104-509) (図1) および第4群(折丁65-68: fols. 510-538)である。

様々なレイアウトの暦諸表を収録した第1折丁群を除き、本文はすべて3コラム形式で筆写されている。各葉レクト面の上辺余白中央部には、淡いセピアインクで記された、制作当初に遡ると思われるローマ数字によるフォリオ番号 (i - VcXLiii) が残る。このローマ数字による旧フォリオ番号とアラビア数字による現行のフォリオ番号との齟齬から、写本内部で少なくとも7葉⁽⁷⁾が失われたことが確認される。加えて、写本末尾 (fol. 538以降) から複数葉が失われており、Rennes 593に収録された最後のテキスト (*Placides et Timeo*) は末尾を欠いている。

ゴシック書体により筆写された本文には、暦諸表を扱う第1折丁群(折丁1-5: fols. 1-42)、韻文体テキストを集約した第2折丁群(折丁6-13: fols. 43-103)、散文体テキストを収録する第3・4折丁群(折丁14-64: fols. 104-509; 折丁65-68: fols. 510-538) (図1) をそれぞれ担当した、3人の写字生の手が識別される⁽⁸⁾。3人のうち、写本後半部の筆写を担当した第3の写字生は、第3折丁群前半部の中核テキストである(1) ブルネット・ラティーニ『宝典 *Livre du Trésor*』冒頭、(2) 同、末尾、および(3) 『十三世紀フランス語聖書』版「ヨブ記」末尾の計3カ所に、Robin Boutemontとの記名(2) を伴う年記を残している。すなわち、(1) « … *Et commence le Livres dou Tresor qui est fontaine de toute science. ¶ L'an de grace Mil IIIc et III (= 1303) le vendredi au soir devant la Purification Nostre Dame sainte Marie.* » (fol.170, col. B) ; (2) « *Ce fenist le derrier livre dou Tresor. ¶ … l'an de grace Mil trois cens et trois et le mardi apres le Quasimodo et l'escrist Robin Boutemont …* » (fol.284, col. A) ; (3) « *Explicit le livre de Job l'an de l'Incarnation Nostre Saingnor IIIc et iii le mardi devant feste saint Marc et commence le Lucidaire en cel meisme jor…* » (fol. 299, col. B) である。ラウス夫妻の指摘によれば、(2) (3) はいずれも復活祭後の日付を示し、復活祭を1年の起点とする当時の暦年表記において額面通り(それぞれ1303年4月16日、同4月23日)の年記と解されるのに対し、(1)のそれは復活祭前の1月31日であることから1303年との表記は現代の暦年では1304年に相当する。同一折丁群内での本文の筆写手順(1→2→3)を考慮すれば、後続の(2) (3)の年記1303年4月と矛盾する(1)の年記1303年(=1304年)1月は、(1)1302年(=1303年)1月の誤りであると考えられる⁽⁹⁾。Rennes 593第3折丁群にその名を残す写字生Robin Boutemontは、本文 fol.514, col. C (*Placides et Timeo*) に記された簡素な図表末尾の「人間 *hommes*」のカテゴリーに、人類の祖アダムとエヴァに続き彼の両親・兄弟と思しき人物と自身の名Robert (Robin) (« Adam, Eve, Guillaume, Erembourc, Jehan, Typhain, Robert ») を加えており、彼らとともに一族で書籍業 (*libraire*) を営んでいた可能性が指摘されている⁽¹⁰⁾。

Rennes 593の制作当初の注文主/所有者を特定する手掛かりや史料は残されていないが、80点余の挿絵に加え60点の豪華な花形装飾イニシアルを含む500葉超の大部な書物の注文主は、相応の財力を備えた人物であったと考えられる。後述するように、写本全編の挿絵制作を担当した逸名の写本彩飾画家、通称〈トマ・ド・モブージュの画家〉(*Maître de Thomas de Maubeuge*)は、王族を含む裕福な顧客のために多数の伝語世俗写本の彩飾を手がけたことで知られる⁽¹¹⁾。こうした背景から、Rennes 593が、没後の財産売立目録の記述より21点の伝語世俗写本(*Roumans*)を所有していたことが知られるフランス国王ルイ10世妃ハンガリーのクレマンس(*Clémence de Hongrie*, 1328年没)の蔵書であった可能性を指摘する研究者もいるが⁽¹²⁾、現状ではRennes 593本体にそれを示唆する痕跡は認められない。

Rennes 593は、スエード革の装丁に捺された紋章(*d'azur à dix billettes d'argent*)より、ブルターニュ高等法院長官を務めたクリストフ＝ポール・ド・ロビアン(*Christophe-Paul de Robien*, 1698-1756)とその息子ポール＝クリストフのコレクションに由来することが知られる。我々の写本は、ド・ロビアン長官の他の蔵書とともに、フランス革命による財産没収(1792)を経て現図書館の所蔵となったが、これを遡る来歴は不明である⁽¹³⁾。

2 〈トマ・ド・モブージュの画家〉研究史

Rennes 593に関する研究は、本書に収録された80点余の挿絵制作を担当した逸名の彩飾画家、通称〈トマ・ド・モブージュの画家〉⁽¹⁴⁾に関する美術史的論考と、収録テキスト・挿絵図像間の関係⁽¹⁵⁾に関する考察を軸として、進められてきた。

〈トマ・ド・モブージュの画家〉は、14世紀初頭～1340年代前半パリの世俗写本彩飾を代表する画家の一人であり、Rennes 593もまたパリの制作とする見解に、研究者の間で異論は無い。また、我々の写本は、本文写字生Robin Boutemontの残した年記により制作年(1303)を確定しうる、同画家の現存最初期の作例として重要である。

一方、我々の写本に収録された『十三世紀フランス語聖書』版ヨブ記については、同聖書テキスト研究が創世記ならびに福音書の校定版編集に注力してきたためか⁽¹⁶⁾、『十三世紀フランス語聖書』写本伝承系統上のRennes 593の位置づけに関する情報は、管見によれば皆無である。その冒頭に置かれた挿絵(図1)についても、本書収録の主要テキストとその多彩な挿絵図像の中に埋没してか、2003年に刊行されたRennes 593のモノグラフにおいて初めて本格的に取り上げられるまで⁽¹⁷⁾、研究者の関心を引くことは殆ど無かったようである。

Rennes 593全編の挿絵を制作した〈トマ・ド・モブージュの画家〉は、ノルマンディ在住のPierre Honnorez de Neuchâtelなる人物の注文によりパリの書籍商(*libraire*)トマ・ド・

モブージュ Thomas de Maubeuge が 1318 年に制作した『フランス大年代記 *Grandes Chroniques de France*』写本 (Paris, BnF., fr. 10132)⁽¹⁸⁾ の挿絵画家として、受注した書籍商の名に因み命名された、逸名の写本彩飾画家である。注文主ピエール＝オノレ・ド・ヌシャテルは、フランス王フィリップ 4 世 (在位 1285-1314) の弟シャルルの代官を務めた高級官僚であった⁽¹⁹⁾。一方、受注したトマ・ド・モブージュは、パリの書籍商街であったノートルダム大聖堂脇の rue Neuve に店を構えたフランス北部エノー地方モブージュ出身の書籍商で、王族を含む裕福な顧客を抱えていたことが知られている。写本が現存する 1318 年の『フランス大年代記』以外にも、フランス王室と縁戚関係にあったアルトワ女伯マオ Mahaut d'Artois (1268-1329) に 1313 年に『聖人伝 *Vie des saints*』および『孔雀の誓願 *Vœux du Paon*』(いずれも現存せず) を納入、1328 年にはフランス北部エダンにあったマオの礼拝堂で用いるミサ典書と聖務日課書 (いずれも現存せず) の装丁を補修した記録などが残る⁽²⁰⁾。

書籍商トマ・ド・モブージュが 1318 年に制作を手がけた『フランス大年代記』(Paris, BnF., fr. 10132) の挿絵画家〈トマ・ド・モブージュの画家〉は、『フランス大年代記』・『ローマ建国史』・『アレクサンドロス大王伝』等の歴史・年代記テキスト、聖杯伝説や『薔薇物語』などの世俗文学、さらには『増補版歴史物語聖書』(図 2) や Rennes 593 に収録された百科全書・自然科学的著作あるいは道徳・教科的著作など、約 30 点の俗語写本を核とする多彩な挿絵レパートリーを誇る⁽²¹⁾。これらの写本作品には、挿絵を含むフォリオ面の余白に、画家に挿絵図像の大まかな内容を示す役割を果たしたと思われるメモが挿絵完成後の消去を免れ残っている例もあり、多様な需要に応えた画家の制作手法の一端を窺わせる⁽²²⁾。挿絵彩飾の様式分析に基づく帰属作品の制作年代から推定される同画家の活動期間は、1303 年の年記を持つ Rennes 593 から同 1342 年の仏語訳『ユスティニアヌス法典』(Paris, BnF., fr. 498)⁽²³⁾ まで、約 40 年に及ぶ。多くの場合、フォリオ版の大部な写本に、数十点あるいは時には 100 点を越す挿絵や物語イニシアルを伴うこれらの作例では、我々の画家は他の彩飾画家と分担して制作にあたっている場合も少なくない⁽²⁴⁾。

〈トマ・ド・モブージュの画家〉が書籍商トマ・ド・モブージュから制作を請け負ったと見られる挿絵作品は、ラウス夫妻の詳細な研究によれば、1318 年の年記を持つ『フランス大年代記』(Paris, BnF., fr. 10132) の他に、少なくとも 2 点の仏語聖人伝写本 (London, BL, Add. 17275 ; Paris, Arsenal 5204) にも見出される⁽²⁵⁾。両者の近い関係から、画家の通称の由来となった書籍商自身が挿絵彩飾画家でもあった可能性を示唆する研究者もいるが、これを裏付ける確たる証拠は現在のところ確認されていない。

3 彩飾の構成

Rennes 593 では、収録された 20 点余のテキストや同一テキスト内の主要な下位分節の冒頭は、朱書標題に加え、テキスト欄 1 コラム分の幅の矩形の挿絵と、本文 3～8 行分の

高さに相当する大型の花形装飾イニシアル (*initiale fleuronnée*) あるいは物語イニシアル (*initiale historiée*) により、明示される (図1)。花形装飾イニシアルおよび物語イニシアルからは、テキスト欄に沿ってページ下端に達するバケット装飾が伸び、その先端には伸びやかな曲線を描く蔓に見立てられたアンテナ装飾が続く。白色の細線による簡素な波状文様を伴うブルーないしはローズ地の文字本体とその内側の金地部分に配された規則的な蔓草文様からなる Rennes 593の花形装飾イニシアルは、13世紀最終四半期～14世紀前半のパリ彩飾写本の典型的な様式を示している。こうした花形装飾イニシアルは、13世紀最終四半期以降、特に世俗写本において、本文の主要な分節の冒頭に、テキスト欄の半分から2/3程度の幅の物語イニシアルに代わり、テキスト欄1コラム分の幅の矩形の挿絵を配置するようになったことに伴い導入された、彩飾要素である。花形装飾イニシアルを伴わないテキスト下位分節の冒頭は、本文2～3行分の高さに相当するシャンピ・イニシアル (*initiale champie*) により示される。白色の細線による繊細な蔓草文様を伴うブルーないしはローズの地で磨かれた金地の文字本体を囲むこれらのシャンピ・イニシアルもまた、同時代のパリで制作された俗語写本にしばしば見られる装飾要素である。一方、Rennes 593では、暦諸表をまとめた第1折丁群を含め、赤・青インクのペン線描による線条装飾を施したフィリグラン・イニシアル (*initiale filigranée*) やページ上辺余白のランニング・タイトル、あるいは散文体テキストの行末の余白を充填する行末装飾 (*bout de ligne*) 等の装飾要素は、一切用いられていない。

テキスト欄1コラム分の幅を占めるパネル状の挿絵は、白の細線による波状文様を伴うブルーないしはローズの幅広の帯状枠と四隅の金地の矩形モチーフを組み合わせた画面枠 (図1) により囲まれる。登場人物とテキストの内容を伝える必要最小限のモチーフから構成される画面の背地は、描かれる挿絵主題に関わり無く、磨かれた金地、あるいは規則的に配された小さな白点 (図1) ないしは格子文様が重ねられた (参考：図2) ローズないしはブルーの地で、一律に塗り込められる。

〈トマ・ド・モブージュの画家〉は、挿絵図像がある程度定型化したミサ典書のような作品よりは、新興の (従って定型化した挿絵図像の伝統に乏しい) 世俗テキストのための挿絵の需要に積極的に応え、『フランス大年代記』のような挿絵点数の多い大型プロジェクトをしばしば手がけたためか、その作品には仕上げの粗さと挿絵主題の曖昧さがしばしば見受けられる。軽く肘を曲げた左腕でマントを押さえ右手を胸前あるいは口元に挙げる身振り (図1, 2)、あるいは人差し指を立て口元に挙げた右手に左手の掌を添える仕草の人物と、右手を胸に当て相手の話に聞き入る身振りの人物により、発話や登場人物間の対話を暗示する慣用的な手法は、Rennes 593に多い「著者＝語り手」による知識伝達型テキストの主要分節冒頭に頻出する汎用性の高い挿絵レパートリーである。人物描写についても、長衣とマントを纏う聖書や古代史の登場人物、知識人の服装とされる長い筒型の袖を伴う外套と縁なしのトック帽を着用した著者あるいは教授者など、パターン化した造形が目立つ。特に帽子を着用した人物の場合、四分の三正面観で捉えられた、身体に比してア

ンバランスに大きい逆三角形の頭部、大きな山形の弧を描き直線的な鼻梁へと続く眉、片側に瞳を寄せた滴型の眼、顔面や手指と同じ白色で彩色され、額の中央部から顔の左右へと大きなウェーブを描いて流れる頭髪などに、この画家の特徴が顕著に認められる。これらの人物と彼らが纏う衣の描写は、ハイライトや陰影によるモデリングの乏しい平面的な賦彩と、色面を区切る黒の輪郭線や衣襷の描き起こし線を主体とする形態把握により、特徴づけられる。ややくすんだ色調の青・赤・朱・ローズ・白に少量の灰色とエメラルド・グリーンを伴うパレットは、13世紀後半～14世紀前半のパリ写本彩飾における平均的な色彩構成を示している。

4 13世紀末～14世紀前半の仏語訳聖書写本挿絵における「ヨブ記」図像

Rennes 593に収録された個々の写本テキストとそれに伴う挿絵図像との関わりについては、2003年に刊行されたモノグラフがすでに基礎的な分析を行っている。本稿では、13世紀末～14世紀前半の仏語訳聖書写本挿絵における「ヨブ記」図像の中でのRennes 593の「ヨブ記」扉絵の位置づけを試みたい。

『十三世紀フランス語聖書』版ヨブ記（fols. 289v, col. A – 319v, col. C）を含む第3折丁群（折丁14-64：fols. 104 – 509）は、比較的短い4篇のテキスト *Prophéties de Merlin*（fol.104r, col. A-）、*Prophéties de la reine Sibylle*（fol.163r, col. B-）、*Milliaire*（fol.165v, col. A-）、*Lunaire*（fol.167v, col. A-）に続き、100フォリオ超のブルネット・ラティーニ『宝典 *Livre du Trésor*』（fol.170r, col. C-）、「死者の通夜 *Vigiles des morts*」（fol. 284r, col. A-）、「ヨブ記」（fol. 289v, col. A-）、*Lucidaire*（fol. 299r, col. C-）、*Livre de Sydrac*（fol. 320r, col. A-）、*Boethius, Consolation de Philosophie*（fol. 471v, col. C-）を収録する、Rennes 593写本の中核部分である【別表】。「死者の通夜」に続く⁽²⁶⁾「ヨブ記」冒頭の挿絵は、長い筒型の袖を伴う外套と縁なしのトック帽を身につけた知識人として表現されたヨブが、天から見守る神に対し、簡素なテーブル上に並べられた貨幣と思しき円盤状の物体を指し示す場面（図1）を描く。〈トマ・ド・モブージュの画家〉に特徴的な慣用的人物類型としての「知識人」と、曖昧な場面描写（テーブル上の物体は明確に貨幣と判別しうる特徴が描写されているわけではなく、神とヨブとの間で交わされる視線や身振りの意味も定かではない）が、ヨブ記冒頭の扉絵としてのこの挿絵の読み取りを、困難にしていることは否めない。蝶番で開閉する松葉状の構造物2本を軸木の両端に固定した折畳式の脚・架台（仏：tréteaux）の上に天板を載せたテーブルと天板上に並べられた貨幣は、中世後期の世俗絵画にしばしば見られる、通りに面した屋台の描写⁽²⁷⁾をむしろ連想させましょう。カサーニュ＝ブルケは、2003年刊のモノグラフにおいて、この挿絵について、「オレンジ色のテーブル天板上に置かれた白い宝物箱のようなもの（une sorte de coffre）の中に並べられた金貨」を前にヨブは「開いた右掌により（上空に顔を見せる）神に感謝しているようであり」、「財

産を（神に）提示し、神への服従の意を示す」場面を描いたものと解釈しているが⁽²⁸⁾、明確な根拠や解釈の例証となる比較作例を挙げているわけではない。カサーニュ＝ブルケの指摘が正しければ、この挿絵はヨブが試練の後に財産を回復した場面（ヨブ記42章10節「ヨブが友人たちのために祈ったとき、主はヨブを元の境遇に戻し、更に財産を二倍にされた。」）を描いたものと解されよう。

14世紀前半のパリ彩飾写本市場において急速に台頭することになる各種の世俗写本に活躍の場を見出した挿絵彩飾画家たちの作品には、ある程度の図像伝統の存在が想定される聖書関連図像のような分野においても、挿絵主題（場面）の解釈に曖昧さが残る場合が少なくない。この新興市場を代表する挿絵彩飾画家としては、我々の画家に加え、彼の主要共同制作者である〈リシャール・ド・モンバストンの画家 *Maître de Richard de Monbaston*〉や〈フォーヴェル物語の画家 *Maître du Roman de Fauvel*〉が挙げられるが⁽²⁹⁾、これらの画家の手になる「ヨブ記」挿絵の中でも、〈トマ・ド・モブージュの画家〉の描くそれは、その特異性において際立っている。

14世紀前半のパリ彩飾写本市場において聖書関連図像の主要な媒体となったのは、『十三世紀フランス語聖書』と『歴史物語聖書 *Bible historique*』・『増補改訂版歴史物語聖書 *Bible historique complétée*』であり、上記の画家たちもそれぞれ複数の写本作品の挿絵制作に従事している。これらの写本作品に見られる「ヨブ記」挿絵図像は、筆者の行った調査によれば、以下の5類型に分類することができる⁽³⁰⁾。

- ① 重い皮膚病に侵され灰の中で身体を掻き篋るヨブと、彼を見舞う妻や友人たち⁽³¹⁾（図3：『増補改訂版歴史物語聖書』Paris, Bibliothèque Sainte-Geneviève, ms. 20, fol. 209v；〈フォーヴェル物語の画家〉による）
- ② 篤実なヨブに試練を与えるよう神を促すサタンと、皮膚病に苦しむヨブ⁽³²⁾
- ③ 所有する家畜の群れが壊滅したとの報告を受けるヨブ⁽³³⁾
- ④ 試練に見舞われる以前（あるいは試練が去った後）のヨブ一家の平和な食事風景⁽³⁴⁾、
- ⑤ 上空から見下ろす神に対して、（何かを載せた）テーブルを手で示すような仕草を見せるヨブ（図1）（図2：『増補改訂版歴史物語聖書』New York, The Morgan Library, ms. M. 322, fol. 221）

Rennes 593とならび図像類型⑤に属するニューヨーク、モーガン図書館所蔵の『増補改訂版歴史物語聖書』中の「ヨブ記」冒頭の扉絵は、〈トマ・ド・モブージュの画家〉の手になる横長矩形の挿絵である。ローズ地の格子文様で背地が覆われた画面の左手に、肘掛と背もたれを伴う玉座のような大型の椅子を背にして、トック帽とマントを着用したヨブが立つ。ヨブは、画面右上隅の雲に覆われた天から頭部をのぞかせる神に対し、画面右手に設置された大型の祭壇状の構造物を左手で提示する仕草を見せる。モーガン図書館所蔵作品の挿絵画面構成はRennes 593のそれに共通するが、祭壇状の構造物の上には何も置かれておらず、Rennes 593の挿絵以上に場面の解釈に困難を伴う。カサーニュ＝ブルケが述べるように、Rennes 593の挿絵が「神に感謝し」「（財産を提示して）神への服従の意を示

す」ヨブを表すとすれば、モーガン図書館所蔵作品の挿絵に描かれた祭壇状の構造物は、神への感謝あるいは服従の意を示す燔祭（「ヨブは息子たちを呼び寄せて聖別し、朝早くから彼らの数に相当するいけにえを捧げた」ヨブ記1章5節）を執り行うための祭壇を意図したものであろうか。これら2点の写本作品の示す類型⑤は、筆者の知る限り、『十三世紀フランス語聖書』・『増補改訂版歴史物語聖書』のいずれにおいても〈トマ・ド・モブージュの画家〉に固有の図像であり、14世紀前半パリで活躍した他の彩飾写本画家たちの作品には類例を見ない。

ヨブ記1章5節に対応する燔祭場面を描いた挿絵としては、1170年頃モザン地方で制作された『フロレツフェ修道院の聖書』のヨブ記冒頭に位置する寓意的内容の全ページ大挿絵（London, British Library, Add. Ms. 17738, fol. 3v）（図4）が名高いが⁽³⁵⁾、この挿絵では、燔祭を執り行うヨブを描いた三日月状の区画の真下にヨブ記1章4節（「息子たちはそれぞれ順番に、自分の家で宴会の用意をし、三人の姉妹も招いて食事をすることにしていた」）に対応する宴会場면을配することにより、連続するヨブ記1章4～5節の文脈を視覚化したものであることが明示されている。翻って、モーガン図書館所蔵『増補改訂版歴史物語聖書』のヨブ記扉絵にはこうした文脈（燔祭の根拠）を示す要素が欠けているが、これは「より十全な」（『フロレツフェの聖書』のように、燔祭の根拠を示す図像を伴った）挿絵サイクルを手本として参照しながら、燔祭場面のみを不完全に切り取った結果なのであろうか？同様の指摘は、Rennes 593の挿絵が意図した可能性のある「ヨブの原状回復」（ヨブ記42章）の描写にも、当てはまる。もとより、写本テキストを問わず主題の曖昧さが目立つ〈トマ・ド・モブージュの画家〉作品においては、この問題は「ヨブ記」冒頭扉絵の図像類型にとどまらず、同画家の制作手法全般に関わる問題視座の中で改めて問われるべきであろう。

5 結語にかえて

本稿は、『十三世紀フランス語聖書』の「ヨブ記」を収録するミセラニー写本であるRennes 593を糸口に、14世紀前半に急速に普及する散文体仏語訳聖書における「ヨブ記」挿絵図像と、その制作に携わった逸名の彩飾画家〈トマ・ド・モブージュの画家〉の位置づけを、同時代のパリで制作された主要な作例とその画家たちの作品との比較を通じて、試みるものである。14世紀前半に急速に拡大しつつあった世俗彩飾写本市場に活躍の場を見出した画家たちの手になるこれらの挿絵は、〈トマ・ド・モブージュの画家〉の携わったRennes 593やモーガン図書館所蔵作品に典型的に見られるように、聖書写本の挿絵と言えども従来の挿絵図像の伝統には必ずしも縛られず、他の世俗写本作品挿絵と同様に主題・場面の解釈に多分に曖昧さあるいは困難が伴う作例が少なくない。これらの挿絵図像の解明においては、従来の聖書図像研究という切り口とは別に、同時代の世俗彩飾写本市場で活躍した画家たちの制作手法を改めて問い直す必要がある。その意味で、Rennes

593に関する考察は、そのミセラニー写本というコンテキストからも、14世紀パリの世俗彩飾写本研究に新たな方法論的視座の可能性を提示するものと言えよう。

図版キャプション一覧

- 図 1 Rennes, Bibliothèque municipale, ms. 593, fol. 289v
- 図 2 New York, The Morgan Library, ms. M. 322, fol. 221
- 図 3 Paris, Bibliothèque Sainte-Geneviève, ms. 20, fol. 209v
- 図 4 London, British Library, Add. Ms. 17738, fol. 3v

註

- (1) 本稿は、筆者が2002年度に鹿島美術財団より研究助成を受けた研究について2003-2004年に発表した2件の研究報告（「13世紀フランスを中心とする聖書図像の伝播・交流に関する研究—『十三世紀フランス語聖書』写本挿絵の展開—」鹿島美術財団編『鹿島美術研究年報』第20号別冊、平成15（2003）年、p. 471-480、および2004年5月鹿島美術財団にて口頭で行った研究報告）においてその概要を示し、平成19-22年度科学研究費補助金（基盤研究C）対象の研究課題（課題番号19520101「中世後期の西ヨーロッパ彩飾写本に見られる十字軍遠征の影響に関する基礎研究」）において発展させた、『十三世紀フランス語聖書』彩飾写本研究の続編である。
- (2) 『十三世紀フランス語聖書』写本テキストに関する主要な研究としては、拙論「『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：最初期の作例について」、『実践女子大学美術史学』第23号（2009）、pp. (39) - (53)；拙論「『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：〈パリ-アッコンの画家〉帰属作品について」、『実践女子大学美術史学』第24号（2010）、pp. (39) - (55)；拙論「『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：フランス北部の作例と〈パリ-アッコンの画家〉をめぐって」、『実践女子大学美術史学』第25号（2011）、pp. (17) - (38)；拙論「『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：オクスフォード、クライスト・チャーチ図書館所蔵《新約聖書》について」、『実践女子大学美術史学』第26号（2012）、pp. (17) - (37)、拙論「『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：地域展開の諸相」、『実践女子大学美術史学』第27号（2013）、pp. (21) - (42)、拙論「『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：地域展開の諸相（2）」、『実践女子大学美術史学』第28号（2014）、pp. (19) - (38)の各論文において引用した文献を参照。
- (3) 主要な『十三世紀フランス語聖書』挿絵入り写本については、註(1)に引用した拙論2003中のリストを参照（修正の必要あり）。
- (4) Cf. VETAULT (A.), *Catalogue générale des manuscrits des bibliothèques publiques de France, Tome 24 (Département) Rennes*..., Paris, 1894, pp. 238 - 248 ; SNEDDON (C.R.), *A Critical Edition of the Four Gospels in the Thirteenth-Century Old French Translation of the Bible*. Ph. D., 2 vols., University of Oxford, 1978, p. 200 - 201 ; Idem., Pour l'édition critique de la Bible française du XIIIe siècle, in : *La Bibbia in Italiano tra Medioevo e Rinascimento. Atti del Convegno Internazionale, Firenze, Certosa del Galluzzo, 8-9 nov. 1996*, Firenze, 1998, pp. 229-254, en part., p. 235 ; Idem., The Origins of the 'Old French Bible' : The Significance of Paris, BNF, ms. fr. 899, in : *Studi francesi*, CXXVII (1999), pp. 1 - 13, en part., p. 1, note 3 ;

Idem., *Rewriting the Old French Bible : the New Testament and Evolving Reader Expectations in the Thirteenth and Early Fourteenth Centuries*, in : SAMPSON (R.), AYRES-BENNETT (W.), éd., *Interpreting the History of French. A Festschrift for Peter Rickard on the occasion of his eightieth birthday*. Amsterdam / New York, 2002, pp. 35 – 59, en part., p. 52 – 53 ; Idem., *On the creation of the Old French Bible*, in : *Nottingham Medieval Studies*, XLVI (2002), pp. 25 – 44, en part., p. 26 ; KÖNIG (E.), éd., *Trésors des bibliothèques de Bretagne*, Rennes, 1989, no. 12 ; STONES (A.), *The Illustrated Chrétien Manuscripts and their Artistic Context*, in : BUSBY (Keith), NIXON (Terry), STONES (A.) et WALTERS (Lori), éd., *Les manuscrits de Chrétien de Troyes / The manuscripts of Chrétien de Troyes* (2 vols.), Amsterdam, 1993, t. 1, pp. 227 – 322, en part., p. 263 ; Eadem., *Les manuscrits du cardinal Jean Cholet et l'enluminure beauvaisienne vers la fin du XIIIe siècle*, in : *L'art gothique dans l'Oise et ses environs (XIIIe - XIVe siècle). Architecture civile et religieuse, peinture murale, sculpture et arts précieux, etc ... Colloque international organisé à Beauvais les 10 et 11 octobre 1998 par le G.E.M.O.B.*, Bauvais, 2001, pp. 239 – 266, en part., p. 246 ; ROUSE (R.H. & M.A.), *Manuscripts and their makers. Commercial Book Producers in Medieval Paris 1200 – 1500*. 2 vols., London, 2000, t. 1, pp. 185, 372, note 88 ; t. 2, pp. 128, App. 7F, 7G ; CASSAGNES-BROUQUET (S.), *L'image du monde. Un trésor enluminé de la bibliothèque de Rennes*, Rennes: Presse univ. de Rennes, 2003 ; ROUX (B.), *Monde en miniatures : l'iconographie du Livre du Trésor de Brunetto Latini*, Genève, 2009, fig. 81, 82, pp. 417 – 418.

- (5) 収録テキストについては、VETAULT 1894 ; CASSAGNES-BROUQUET 2003, p. 124 を参照。なお、筆者作成の別表中の大文字アルファベット記号 (col.) A, B, C は、テキスト欄のコラム (col.) 1, 2, 3 を示す。
- (6) 西洋中世の写本制作の現場における、複数の写字生・彩飾画家間の分業の現実的な最小単位は折丁 (gathering) であるが、多くの場合、分業は折丁群 (booklet / libellus)、すなわち、先行するテキストの末尾以下のスペースを折丁最終葉まで白紙のまま残す一方、後続テキストの筆写を新しい折丁の冒頭から始める (改丁) ことにより生じる、(複数の) 折丁 (およびテキスト) のまとまりを単位として組織される。折丁群を割り振ることにより、複数の写字生・彩飾画家が同時並行的に作業を進めることができる。
- (7) 現在の fols. 11-12 間に 2 葉、fols. 47-48, 289-290, 465-466, 509-510, 533-534 間にそれぞれ 1 葉ずつの欠落が認められる。
- (8) Cf. CASSAGNES-BROUQUET 2003, p. 9, note 12.
- (9) ROUSE 2000, t. 2, p. 179 ; CASSAGNES-BROUQUET 2003, p. 10.
- (10) ROUSE 2000, t. 2, p. 128.
- (11) 同画家に関する主要な先行研究として、以下を参照。HEDEMAN (A.), *Royal Images. Illustration of the "Grandes Chroniques de France". 1274-1422*, Berkeley, 1991, pp. 37 – 47 ; STONES (A.), *The stylistic context of the Roman de Fauvel, with a note on Fauvain*, in : BENT (M.) & WATHEY (A.) éd., *Fauvel Studies. Allegory, Chronicle, Music, and Image in Paris, BNF. ms. fr. 146*, Oxford, 1998, pp. 529 – 567 ; ROUSE 2000, vol. 1, pp. 172 – 216, 242 – 260 ; vol. 2, App. 4D, 7D, 7F, 7M Tables 1, 2, 9B ; ills. 97, 100, 105, 111 – 115 ; LEO (Domenic), *Images, Texts, and Marginalia in a « Vows of the Peacock » Manuscript (New York, Pierpont Morgan Library MS G24) : with a Complete Concordance and Catalogue of Peacock Manuscripts* (Library of the Written Word : the Manuscript World), Leiden / Boston, Brill, 2013, en part., pp. 14 – 20.
- (12) Cf. ROUSE 2000, vol.2, p. 179. ラウス夫妻は、クレマンズの遺産売立目録に記載のある « l'anemallat aus juyz » で始まる書物 (cf. DOUËT D'ARCQ (Louis Claude), *Inventaire et vente après décès des biens de la reine Clémence de Hongrie, veuve de Louis le Hutin*, in : *Nouveau recueil de comptes de l'argenterie*, Paris, 1874, pp. 37-112, en part. p. 63, « no.213. Item, un grant roumans, où il a dix sept ystoires, et se

commence de l'anemallat aus juys, présié 30 l.par. ; vendu au Roy et livré comme dessus ») が、Rennes 593 巻頭の暦諸表 (fols. 1r – 41r) に続き fol.41v, col. A 冒頭の朱書標題 « § Si commenche le canon sus l'almenach au juif & premierelement de Saturne » で始まる掌編 *Almanach aux Juifs* (fols.41v, col. A – 42v, col. B) を指す可能性を指摘している。しかしながら、同目録中の「17 点の挿絵 (dix sept ystoires) を含む」との記述は、仮にこれが Rennes 593 では挿絵を伴わない *Almanach aux Juifs* に続く第 2 折丁群 (fols. 43-103) 所収テキストの挿絵に言及したものとしても、現存する 40 点余の挿絵点数とは一致しない。

- (13) レンヌ市立図書館の写本コレクションの核となったド・ロビアン蔵書については、VETAULT 1894, pp. 1 – 2 ; FERRIEU (Xavier), Christophe-Paul de Robien (1698 – 1756), magistrat et collectionneur, in : *Patrimoine des bibliothèques de France. Une guide des régions. Volume 8 : Bretagne, Pays de la Loire, Poitou-Charentes*, Edition Payot, 1995, pp. 212 – 215.
- (14) 〈トマ・ド・モブージュの画家〉に関する主要参考文献については、註(11)を参照。
- (15) 特に、天文学関連の興味深い図像を多数扱う Gossuin de Metz, *Image du Monde, Livre de Sydrac* を筆頭とする百科全書・自然科学的著作、聖母信仰の高まりを背景に当時人気を博した Gautier de Coinci, *Miracles de Notre Dame* 等の聖母奇蹟譚は、中世文学と美術史学が連携した研究が進められている。これらの写本テキストに関する主要な先行研究については、CASSAGNES-BROUQUET 2003, pp. 125 – 126 の文献一覧を参照。また、Rennes 593 ではおそらく写本前半部の Gossuin de Metz, *Image du Monde* との内容的な重複を避けるために天文学関連の挿絵図像が省かれた Brunetto Latini, *Livre du Trésor* については、ROUX 2009 を参照。
- (16) 『十三世紀フランス語聖書』テキスト研究については、註(4)に掲げる SNEDDON による一連の論考および QUEREUIL (M.), *La Bible française du XIIIe siècle. Edition critique de la Genèse*, Genève, 1988 を参照。
- (17) CASSAGNES-BROUQUET 2003, pp. 32 – 34.
- (18) Cf. HEDEMAN 1991, p. 37, 249 – 251, 285, note 22, figs. 22 – 25 ; “ Ci commencent les croniques des Roys de France … lesqueles Pierres Honnorez de Neuf Chastel en Normendie fist escrire et ordener … à mestre Thomas de Maubuege, demourant en rue nueve Nostre Dame de Paris, l’an de grace Nostre Seigneur mil .CCC. et XVIII.” (Paris, BnF, fr. 10132, fol. 1 ; cf. ROUSE 2000, vol. 2, App. 7C, p. 173)
- (19) ROUSE 2000, vol. 1, p.179.
- (20) Cf. ROUSE 2000, vol. 1, pp. 178 – 183, vol. 2, App. 7A, 7B, 7C, 7E ; G. アズノールは、13 世紀～14 世紀第 1 四半期における仏語世俗写本の展開に関する論考において、13 世紀の作例にピカルディ方言の特徴が顕著に認められることを指摘し、フランス北部諸州（フランドル、アルトワ、エノー、ピカルディ）およびシャンパーニュ地方出身の写字生が彼地のみならず首都パリにおいて果たした役割を強調する。Rennes 953 の写字生 Robin Boutement についても、「イル・ド・フランス方言に馴化した（« francien »）」フランス北部出身の写字生であるとする。HASENOHR (G.), *Les romans en vers*, in : MARTIN (H.-J.) et VEZIN (J.), éd., *Mise en page et mise en texte du livre manuscrit*, Paris, 1990, pp. 244 – 263, en part., p. 249.
- (21) 〈トマ・ド・モブージュの画家〉に帰される写本作品のリストについては、ROUSE 2000, vol. 2, App 7F ; CASSAGNES-BROUQUET 2003, pp. 123 – 124 を参照。
- (22) Cf. STONES (A.), *Indications écrites et modèles picturaux, guides aux peintres de manuscrits enluminés aux environs de 1300*, in : BARRAL I ALTET (X.), éd., *Artistes, artisans et production artistique au Moyen Age. III. Fabrication et consommation de l'œuvre*, Paris, 1983, pp. 321 – 349.
- (23) 同写本と作中に記された年記については、ROUSE 2000, vol. 2, App 7F, p. 177 を参照。
- (24) 〈トマ・ド・モブージュの画家〉と同時代の彩飾画家との協働関係については、STONES 1993, en part., pp. 260 – 265 ; Eadem., 1998, passim. ; ROUSE 2000, vol. 2, App 7F, 7M, 8D, 9A を参照。

- (25) Cf. ROUSE 2000, vol. 2, pp. 184 – 193.
- (26) Rennes 593に収録された「死者の通夜」と「ヨブ記」との関わりについては、別稿で論じる。
- (27) 例えばBruxelles, KBR, ms. 9066 – 9068, *Les Anciennes Chroniques et Conquêtes de Charlemagne*, fol. 11 (15世紀中葉)を参照。
- (28) CASSAGNES-BROUQUET 2003, p. 33. なお、古代末期から近代までのヨブ(記)図像全般に関する近年の包括的な考察としてはTERRIEN (Samuel), *The Iconography of Job through the Centuries. Artists as Biblical Interpreters*, University Park, 1996を参照。
- (29) これらの画家に関する近年の包括的研究として、ROUSE 2000およびSTONES 1998を参照。
- (30) 以下にあげる『増補改訂版歴史物語聖書』の作例については、KOMADA 2000, tome 3 (catalogue des manuscrits)を参照。
- (31) Cf. Chantilly, Musée Condé, ms. 4, *Bible du XIIIe siècle*, fol. 357v : 1300年頃。
- (32) Cf. New York, The Public Library, ms. Spencer 4, *Bible historique complétée*, vol. 2, fol. 154 : 〈リシャール・ド・モンバストンの画家〉による (15世紀後半の上塗りの下に確認)。
- (33) Cf. Oxford, Bodleian Library, ms. Douce 211, *Bible historique complétée*, fol. 214v : 〈フォーヴェル物語の画家〉による。
- (34) Cf. Cambridge, Fitzwilliam Museum, ms. 9, *Bible historique complétée*, fol. 163v : 14世紀中葉。
- (35) 『フロレツフェの聖書』 fol. 3vの寓意的図像については、KATZENELLENBOGEN (Adolf), *Allegories of the Virtues and Vices in Mediaeval Art. From Early Christian Times to the Thirteenth Century*, Toronto / Buffalo / London, University of Toronto Press in association with the Medieval Academy of America, 1989 (reprint : first published 1939 by the Warburg Institute, London), p. 37–38, pl. 39を参照。また、同写本については、所蔵機関の公式サイトを参照。http://www.bl.uk/manuscripts/FullDisplay.aspx?index=1&ref=Add_MS_17738。

折丁群	折丁	フォリオ	テキスト冒頭 - 末尾	テキスト	挿絵・物語イニシアル	備考
1	1	1 - 8	1r	Table astronomique		
			1v - 7r	Calendrier		
	2	9 - 14	7v - 41r	Tables astronomiques		折丁 2 : fols. 11 - 12 間 2葉欠落
	3	15 - 22				
	4	23 - 30				
	5	31 - 42	41v - 42v	Almanach aux Juifs		折丁 5 : 6枚折丁
2	6	43 - 49	43r col. A - 80v col. C	Gossuin de Metz, Image du monde	43r-A; 46v-A, Bx2, C; 47r-Ax2, B; 49r-A	折丁 6 : fols. 47 - 48 間 1葉欠落
	7	50 - 55			53v-A; 54r-C	
	8	56 - 63			60v-C; 63r-A, C; 63v-A/B, C	
	9	64 - 71			64r-A, B, C; 64v-A, Bx2, Cx2; 65r-A; 71r-C	
	10	72 - 79			74r-B/C; 74v-B, C; 75r-C; 75v-C; 76r-B, C; 78r-A	
	11	80 - 87	80r-B/C			
			80v col. C - 82v col. B	Doctirinal le Sage	80v-C	
			82v col. C - 86r col. B	Mappemonde	82v-C	
			86r col. B - 92r col. C	Mariage de Notre Dame ...	86r-B 90r-A	
	12	88 - 95	92r col. C - 93v col. B	Complainte Notre Dame	92r-C	
			93v col. C - 103v col. C	Gautier de Coinci, Miracles de Notre Dame (extraits)	93v-C 96v-A; 103v-A	
				13	96 - 103	
	3	14	104 - 111	104r col. A - 163r col. A	Prophéties de Merlin	104r-A
15		112 - 119				
16		120 - 127				
17		128 - 135				
18		136 - 143				
19		144 - 151				
20		152 - 159				
21		160 - 167	163r col. B - 165v col. A	Prophéties de la reine Sibylle	163r-B	
			165v col. A - 167v col. A	Méthode, Milliaire	165v-A	
					167v-A	
22		168 - 175	167v col. A - 170r col. B	Salomon, Lunaire		fol. 170 col. B : 写字生 Robin Boutement による記名・年記 1303年1月31日
			170r col. C - 284r col. A	Brunetto Latini, Livre du Trésor	171v-A	
193r-B; 198v-A; 199v-C						
200v-C; 205r-C						
211r-A						
225v-A						
23		176 - 183				
24	184 - 191					
25	192 - 199					
26	200 - 207					
27	208 - 215					
28	216 - 223					
29	224 - 231					

3	30	232 - 239	170r col. C - 284r col. A	Brunetto Latini, <i>Livre du Trésor</i>		
	31	240 - 247				
	32	248 - 255			252v-A	
	33	256 - 263				
	34	264 - 271				
	35	272 - 279			274v-C	
	36	280 - 287	284r col. A - 289v col. A	Vigiles des morts	284r-A	fol. 284 col. A : 写生字による年記 1303年4月16日
	37	288 - 294				折丁 37 : fols. 289 - 290 間 1 葉欠落
			289v col. A - 299r col. B	<i>Livre de Job</i>	289v-A	
	38	295 - 302				fol. 299 col. B : 写生字による年記 1303年4月23日
	39	303 - 310	299r col. C - 319v col. C	Honorius Augustodunensis, <i>Lucidaire</i>	299r-C; 300r-C; 300v-A; 302r-B	
	40	311 - 318			311r-C; 313v-C; 315r-A; 315v-B; 318r-B	
	41	319 - 326				
	42	327 - 334	320r col. A - 471v col. C	<i>Livre de Sydrac le philosophe (Livre de la fontaine de toutes science)</i>	320r-A	
	43	335 - 342			332r-A	
	44	343 - 350				
	45	351 - 358				
	46	359 - 366				
	47	367 - 374				
	48	375 - 382				
	49	383 - 390				
	50	391 - 398				
	51	399 - 406				
	52	407 - 414				
	53	415 - 422				
	54	423 - 430				
	55	431 - 438			436v-A/B/C	
	56	439 - 446			439r-B/C; 439v-A/B	
	57	447 - 454			453v-A/B/C; 454r-A/B/C	
	58	455 - 462				
	59	463 - 469				折丁 59 : fols. 465 - 466 間 1 葉欠落
	60	470 - 477	471v col. C - 509v col. C	Boèce, <i>Consolation de Philosophie</i>	471v-C; 473r-Bx2; 473v-A, B	
	61	478 - 485				
	62	486 - 493				
	63	494 - 501				
	64	502 - 509				
4	65	510 - 516	(510r col. A) - (538v col. C) [本文冒頭・末尾欠落]	<i>Placides et Timeo</i>	510r-B, C; 513r-C; 515r-B; 515v-A, B	fol. 510 前 (折丁 65 冒頭) 1 葉欠落 (本文冒頭欠落)
	66	517 - 524			517r-C; 518r-C; 522r-C	
	67	525 - 532			525r-A; 525v-A; 527v-C; 528r-A; 532r-C	
	68	533 - 538			536r-A; 537r-A	折丁 68 : fols. 533 - 534 間 1 葉欠落; fol. 538 以下 (折丁 68 末尾) 欠落 (本文末尾欠落)

図 1 Rennes, Bibliothèque municipale, ms. 593, fol. 289v

图 2 New York, The Morgan Library, ms. M. 322, fol. 221

图 3 Paris, Bibliothèque Sainte-Geneviève, ms. 20, fol. 209v

图 4 London, British Library, Add. Ms. 17738, fol. 3v